

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 つたわらない！ そのときの3つの手（第6時）

板書：① Slowly.（ゆっくり） ② Look!（ポスターを指す） ③ べつのことばで [I don't understand. の顔を黒板に貼る]

T I'm Anna from Australia. I don't speak Japanese. Tell me about Japan!

先生がお客さん役になる（日本語が分からない人、と宣言する）

S We have a summer festival in August.

はや口で言ってもらう＝わざと「つたわらない」を作るのが今日の仕掛け

T Sorry... I don't understand. Three ways! One: slowly. Two: point and say "Look!" Three: another word.

困った顔で止めてから、手は3つ。①ゆっくり ②指して Look! ③べつのことばで

S We have... a summer festival... Look! Fireworks!

ゆっくり+指さしで通じる（先生は Oh! Now I understand! と返す）→ ペアで1～2分×2回。聞く人は1回だけ I don't understand. という

つまった子への助け舟：②の指さしには英語がいらない。ポスターや絵カードを指させたら成立——Look! の1語で十分。①は先生が手のひらをゆっくり動かす合図で引き出せる。

話題2 お客さんの仕事は、しつもんを1つ（第7時）

板書：話す人の仕事＝3文 / 聞く人の仕事＝しつもん1つ [What can I eat? / What can I see? / I want to go!]

T Welcome to Japan! We have snow in winter. You can play in the snow. It's fun.

先生が3文だけ発表してみせる＝話す人の仕事は3文で終わり

T Now I'm the listener. Wow! Nice! ... What can I eat in winter?

こんどは聞く人役。あいづちのあとにしつもんを1つ＝これが今日の仕事

S You can eat hot ramen!

しつもんが返ると話す人がもう1文話し出す（先生は Yummy! I want to go!）→ ペアで「3文→しつもん1つ」を交代で2回

つまった子への助け舟：しつもんが出ない子は、黒板の What can I eat? を指させるだけでよい。指させたら That's a question! で成立。Really? と語尾を上げてくり返すのも、りっぱなしつもん。



中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「つたわらなかったとき、どの手を使った？」→ 使えた手を黒板に1つだけ書き足す（Slowly, please. / Look! / One more time, please.）。ふやすのは1つだけ。書き足した文は第8時のテストの日まで消さない——アンナさん役の先生がI don't understand.と言ったとき、目を上げれば見える場所にあることが大事。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くのが中心。ペアは1～2分×2回で十分——先生が「つたわらない」を演じて見せる時間のほうを長く取る
- ・話題1の仕掛けは「つたわらない場面をわざと作る」こと。うまくいく場面ばかり練習していると、第8時のテストで先生が首をかしげたときに手が止まる。3つの手のうち1つでも出れば、そこから先は続く
- ・話題2は聞く人の練習。発表は「しつもんが返ってきて完成」——活動シート2のルール③と同じことばで言う、第7時の本番でそのまま効く